

冬のコレだけ！ 定着演習
助動詞の活用覚え方

問一

次の助動詞の活用表を完成させよ。

(1) 「つ」

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形

(2) 「まじ」

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
		○		○	○

(3) 「ず」

未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
		○			○

問一
次の文中の傍線部の助動詞について、①終止形と②ここでの活用形を答えよ。②はア〜カから選んで記号で答えよ。(記号は同じものを何度選んでもよい。)

- ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形
オ 已然形 カ 命令形

- (1) 心も知らざらん人に取りかかりて、……。 (『宇治拾遺物語』)
○ (1) () (2)
- (2) なめげなるものに、おほしめしとどめられぬるなむ、……。 (『竹取物語』)
○ (1) () (2)
- (3) さらずまかりぬべければ、……。 (『竹取物語』)
○ (1) () (2)
- (4) 雪のおもしろう降りたりし朝、……。 (『徒然草』)
○ (1) () (2)
- (5) この女をこそ得めと思ふ。 (『伊勢物語』)
○ (1) () (2)

問二

次の文中の傍線部の助動詞について、①終止形と②ここでの活用形を答えよ。②はア〜カから選んで記号で答えよ。(記号は同じものを何度選んでもよい。)

- ア 未然形 イ 連用形 ウ 終止形 エ 連体形
オ 已然形 カ 命令形

- (1) 顔は草の葉の色にてゐたまへり。 (『竹取物語』)
○ (1) () (2)
- (2) 今は逃ぐとも、よも逃がさじとおほえければ、……。 (『宇治拾遺物語』)
○ (1) () (2)
- (3) 何事にか待らむ。 (『堤中納言物語』)
○ (1) () (2)
- (4) 字、袴垂となん、いはれ候ふ。 (『宇治拾遺物語』)
○ (1) () (2)
- (5) 京には見えぬ鳥なれば、みな人、見知らず。 (『伊勢物語』)
○ (1) () (2)

問四

次の文中の () 内の助動詞を適切な活用形に直せ。

- (1) おどろか(す)たまへ。 (『宇治拾遺物語』)
()
- (2) その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たり(けり)。 (『伊勢物語』)
()
- (3) かく見せ(つ) 造麻呂を喜び給ふ。 (『竹取物語』)
()
- (4) ……人の言ひ漏らさむを聞きつけ(たり)む時、……。 (『源氏物語』)
()
- (5) ……とありしこそ、あさましく、むくつけく、恐ろしかりき。 (『宇治拾遺物語』)
()

「できたらOK！」

別冊「解答解説」P.1で必ず答え合わせしよう。
答え合わせができたなら復習完了！

完了!